

第5学年 学級活動指導案

1 題材名「上級生としてできること」(2) ウ 望ましい人間関係の形成

2 題材設定の理由

- 本学級の子どもたちは、男女の仲がよく、友達のよい行いについては男女問わず賞賛したり、協力してそうじや係活動をしたりしている。また、本校は本年の1月に校舎を移転したため、荷物の整理や教室環境の整備をみんなで行った。そのときに、自分たちで協力し、役割分担しながらきばきと作業することができ、進んで働くことのすばらしさやみんなで協力することの大切さを体験することができた。このことから、学級をよりよくするために自分ができることをしようという心情は高まってきていると感じた。そこで、もう少しで最上級生になるこの時期に、よりよい学校にするために自分のよさを生かして何ができるかを考え、上級生として学校の役に立とうとする意欲をもたせたい。そして、男女関係なく互いに協力しながら生活しようとする態度を培いたい。
- 本題材のねらいは、自他のよさを生かしてよりよい学校にするための活動を考え、男女みんなで協力しながら実践していこうとする態度を培うことである。本校は開校間もないため伝統が浅い。そこで、もうすぐ最上級生になる子どもたちがよりよい学校にするために上級生としてできることを考えようという目標を掲げ、一人一人のよさを生かして活動内容を考えることは、一人一人のよさを認め合い、男女関係なく協力していこうとする態度を培う上からも意義あることと考える。
- 本時の指導にあたっては、自他のよさや個性を認め合いながら、よりよい学校にしていくためにできそうな活動内容を決め、実践へつなげたい。そのために、まず、導入では、アンケート調査をもとによき伝統づくりに対する自分たちの現状に気付かせ、課題意識をもたせる。次に展開では、友達からの寄せ書きを読み、自分のよさを確認し、よさを生かせそうなリーダーと活動内容を考えさせる。そして、自分で考えた活動内容についてグループで発表し、友達からの助言を聞き、自己決定していく。さらに、終末では、自己決定したことを発表させ実践意欲を高めるとともに、自他のよさを認め合いながら全員が自己決定できたことを賞賛し、男女で協力することのすばらしさを味わわせたい。

3 目標

- 自他のよさや個性を生かし合ったり、男女で協力し合ったりして、よりよい学校にしていこうとする意欲をもつことができる。
- 友達のよさを認めたり、友達の考えを取り入れたりして、自分の考えを高めることができる。
- 自己決定したことを実践し、自己評価し、修正していくことができる。

4 指導計画(1時間)

	学習活動	指導上の留意点
事前指導	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分のよさ、らしさを見つけ、学校において何のリーダーになれるか考える。 ○ 異性の友達のよさを書き出し、何のリーダーになってほしいかメッセージカードに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ あったらしいなと思うリーダーについて話し合い、自分のよさを生かせそうなものを選ばせる。 ○ 友達の個性を認め、男女関係なく互いに協力して学校をよりよくしていくことを伝え、書かせる。
本時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 異性からの寄せ書きを読み、友達との話し合いにより、自分のよさを生かせそうなリーダーとしての具体的な活動内容を自己決定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ いつ、どこで、何を、どうするという観点を示したカードを記入させ、実践しやすくなるようにする。
事後指導	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己決定した活動内容について実践し帰りの会で振り返り、自己評価と修正を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実践できた子の行い方について賞賛し紹介したり、実践につながない子に助言したりする。

5 本時

(1) 主眼

- 自他のよさや個性を認め合い、よりよい学校にしていくためにできそうなリーダーとしての活動内容を決めることができる。
- もうすぐ最上級生となる自分たちの現状を分析する中から課題を明確にし、学校のために何ができるか考え、友達と話し合いながら自分のよさを生かせそうなリーダーとしての具体的な活動内容を考えることができる。

(2) 展開

	学習活動・内容	指導上の留意点
導入	<p>1 アンケート調査結果から自分たちの課題に気づき、めあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のことで精一杯で学校全体のためになることを考えて行動できていない。 ・ 上級生として何かしなければという思いはあるが、何から取り組んだらよいか ・ 委員会活動に熱心に取り組んでいない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ アンケート調査の結果をもとに、学校全体の問題点や上級生として学校のために貢献できていない自分たちの実態に気付かせ、課題を明らかにし、解決意欲を高めさせる。
／	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 自分のよさを生かして、よりよい学校にするために何ができるか考えよう。 </div>	
展開	<p>2 自分のよさを知り、自分が取り組みそうな内容を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 異性の友達からの寄せ書きを読み、自分のよさを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 笑顔 ・ 責任感がある ○ よさを生かせそうなリーダーとしての具体的な活動内容を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 笑顔→あいさつ運動 ・ 責任感→掃除当番 <p>3 自分の考えを友達と話し合い、リーダーとしての活動内容を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分で考えたリーダーとしての活動内容についてグループで発表し合い、友達からの助言を聞く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶があまりよくないと思う。私は大きな声が出せるので元気よく挨拶できる学校にしたい。そのために、朝学校で10人以上の人に元気よく挨拶しようと思う。 ○ 自分のよさを生かせるリーダーとして活動内容について自己決定し、チェックカードに記入する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達から笑顔がいいからまわりの人を気持ちのよくする挨拶ができそうと言われたので「笑顔で元気のいい挨拶」をしよう決めました。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 異性からのよさに関する寄せ書きを渡し、男女を問わず認められていることを知り、自分のよさを再認識させる。 ○ 具体的に考えることができるように、上級生としてできることをいつ、どこで、何を、どうするという観点を示したカードに記入させる。 ○ 考えの根拠が友達に伝わりやすいように、発表するときの観点を提示する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 60%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の実態 ・ 自分のよさ ・ 目指す学校 ・ 具体的な活動内容 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ チェックカードを活用して、友達からの助言を受けて、活動内容を自己評価し、よりよい活動に付加・修正させる。
／ 終末	<p>4 学習のまとめをし、実践意欲を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自己決定したことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 笑顔→あいさつ運動→仲良しの学校へ ・ 責任感→掃除当番→きれいな学校へ ○ 自他のよさを認め合うことのすばらしさについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ目標へ向かう男女の協力 	<ul style="list-style-type: none"> ○ だれもが責任と意欲をもって実践できるよう、自己決定の内容を掲示していく。 ○ 男女問わず、協力したために全員が自己決定することができたことを賞賛する。

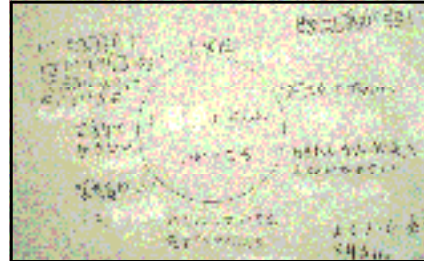
6 指導の実際と考察

【事前指導】

○ よりよい学校にするために、あったらいいなと思うリーダーについて話し合った。子どもたちは、誰に対しても元気にあいさつするあいさつリーダー、すみずみまできれいにするそうじリーダー、大きな声で自分の考えを言う発表リーダー、時間を守りけじめをつける時間リーダーなどを考え出した。そして、自分のよさをノートに書き出し、自分が取り組みそうなリーダーを自分なりに選んだ。

○ 本題材では、男女で協力し合ってよりよい学校にしていこうとする態度を培うことがねらいである。

そこで、同性よりもかかわりが少ない異性のよさに着目させるために、異性の友達一人一人のよさを寄せ書きに書かせた。資料1は、異性の友達から自分のよさを書いてもらった寄せ書きである。



資料1 寄せ書き

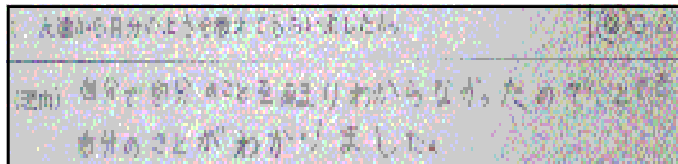
【本時】

(導入)

○ 導入では、現状の学校全体の問題点と上級生として学校のために貢献できていない自分たちの実態に気付かせ課題意識をもたせるために、アンケート調査の結果を提示した。アンケート結果から、学校の問題点と自分の問題点が似ていることに気付かせ、自分たちががんばればよりよい学校にできることを話し合い、めあてをつかませた。

(展開)

○ 異性の友達からの寄せ書きを読ませ、自分のよさを再認識させようとした。授業後の「友達から自分のよさを教えてもらいましたか」の質問に22人中20人が「はい」と答えた。その理由として資料2のように「自分が気付いていないよさを知ることができた」という内容がほとんどであった。その後、自分のよさを生かして、よりよい学校にするために取り組みそうなリーダーを選ばせ、活動内容をノートに書かせた。

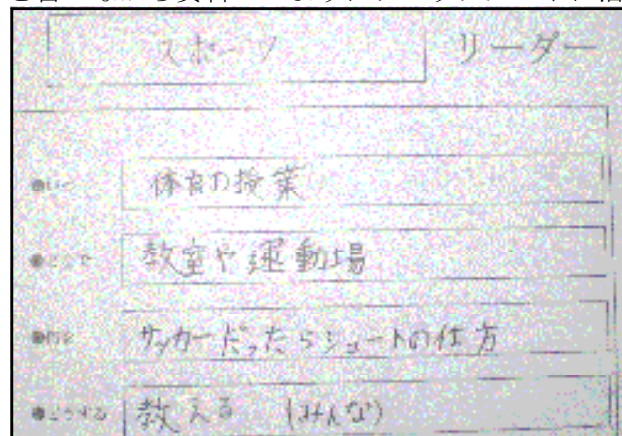


資料2 授業後の感想

○ 男女2人ずつのグループで自分が考えたリーダーと活動内容について発表し合い、友達からの助言を聞き、活動内容を見直させた。A児(男児)は自分のよさを「足が速い」と感じていたが、女子の友達から「スポーツが上手だからスポーツリーダーがいいよ」と言ってもらった。そして、男子の友達から「運動を楽しめるようにサッカーのシュートの仕方をみんなに教えるといいよ」と助言を受け、女子の友達からは「休み時間には低学年にも教えられるよ」と助言を受けた。A児は「いいね」と言いながら資料3のようにチェックカードに活動内容を自己決定していった。

授業後のA児の感想は次の通りである。「ぼくのいいところはないと思っていたら、みんながスポーツリーダーがいいんじゃないと言ったからうれしかった」「男女関係なく協力していっしょけんめい話し合うことができた」

このことから、男女2人ずつのグループで話し合わせたことで、自分のよさを再認識するとともに具体的に活動内容を決めることができたと考える。また、A児の感想から男女で協力することのよさを味わっていることがうかがえる。



資料3 A児のチェックカード

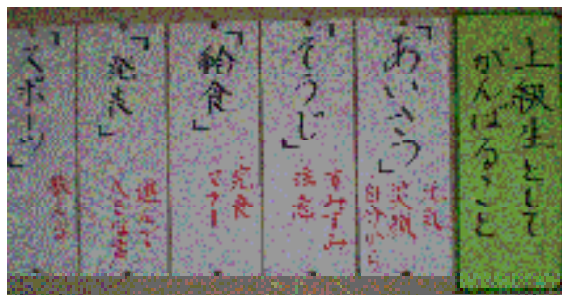
(終末)

○ 終末では、チェックカードに書き込んだ内容を発表させた。B児（女児）は、「私は元気なところがいいと言われたのであいさつリーダーになろうと思います。学校に来るときに子ども見守り隊の方や先生に大きな声であいさつしようと思います」と述べた。C児（男児）は「ぼくは責任感があると友達が言ってくれたのですみずみまでそうじをしてきれいな学校にしたいです」と述べた。チェックカードは1週間、自己評価するようにし、実態に合わせて内容を付加修正していけるようにした。

最後に男女関係なく協力して話し合ったり、互いのよさを認めあったりしたために全員が自己決定できたことを賞賛し、よりよい学校にするために男女みんなで協力していってほしいことを話した。授業後の「男女みんなで協力しながらよりよい学校にしていこうと思いましたが」の質問に22人中21人が「はい」と答えていることから、実践意欲を高めることができたと考える。

【事後指導】

○ チェックカードの自己評価は帰りの会に三段階評価で行った。自己評価とその理由を数名発表させ、がんばりを認め、よりよい学校になってきていることを伝えるようにした。すると、「私もできそうだからやってみよう」という子どもが増えてきた。また、1週間ごとに内容を見直させるとともにみんなが取り組んでいる活動内容を資料4のように教室に掲示し、実践意欲の継続化を図った。



資料4 活動内容の掲示

7 成果と課題

【成果】

- 上級生としてよりよい学校にするために、異性の友達のよさを寄せ書きに書かせたことで、友達の個性を認め、男女の別なくともに協力していこうとする心情を高めることができた。
- 男女のグループで互いの活動内容を一生懸命に助言し合ったことから、男女関係なく友達に対する思いやりや親切な心をもって活動させることができた。
- 授業後の感想から、男女で協力することのよさを味わうことができ、同じ目標に向かって男女みんなで協力していこうとする実践意欲を喚起させることができた。
- 帰りの会でがんばりを賞賛したことで、「自分もやってみよう」とする子どもが増えたとともに子ども同士でがんばりを認め合うことができるようになった。このことは、自他のよさや個性を認め合っている姿だと考える。

【課題】

- 本題材では、「自分のよさを生かしてよりよい学校にする」ことをねらいにしたため、子どもが考える内容が盛りだくさんであった。まずは、自分のよさを生かしやすい場でできることを考えさせた方がよかった。
- 日常の学校生活において、男女が互いに尊重し合い、協力して生きることの大切さを理解することができるように、意図的、計画的な指導を行っていく必要がある。